

リハビリテーション科での先進機器の導入

リハビリテーション科では患者サービスの向上や職員の負担軽減を目的に先進機器を導入しています。

①mediVR カグラ[®](仮想現実技術を用いた医療機器)

2023 年7月に大分県内で初めて導入しました。近年、医療の現場にも Virtual Reality(仮想現実)技術の応用が注目され始めていますが、この mediVR カグラ[®]は VR 空間上に表示される的に向かって体を動かしながら手を伸ばす動作を繰り返すことで脳内の情報処理過程に働きかけることを目的としたリハビリテーション機器です。



ゲーム感覚で機能回復促す

VRリハビリ

【取材】大分県立山香病院（小倉院）が、仮想現実（VR）技術を用いたリハビリテーション機器を導入し、患者の機能回復を促す取り組みを始めた。全県で初めて導入された。県内は初め。

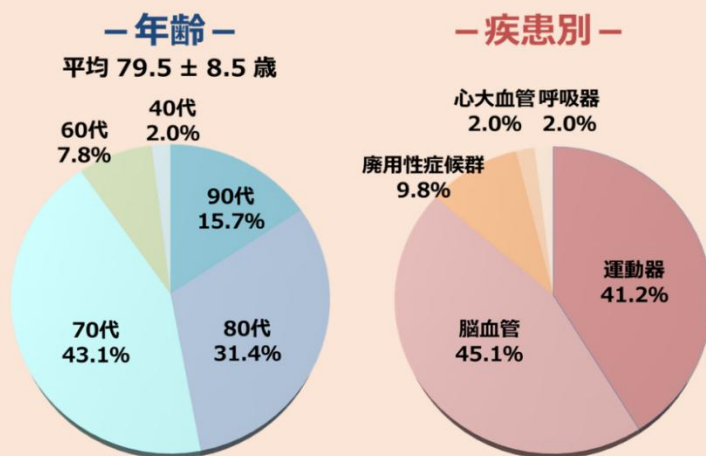
山香病院「歩行」など期間短縮期待

山香病院は、VR技術を用いたリハビリテーション機器を導入し、患者の機能回復を促す取り組みを始めた。全県で初めて導入された。県内は初め。

山香病院は、VR技術を用いたリハビリテーション機器を導入し、患者の機能回復を促す取り組みを始めた。全県で初めて導入された。県内は初め。

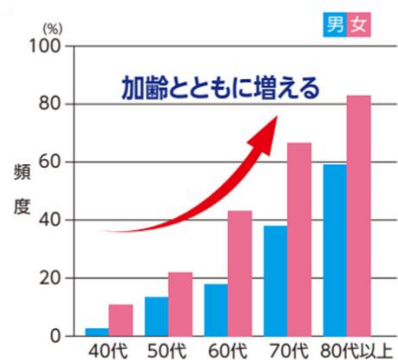
(2023年7月7日大分合同新聞朝刊掲載)

使用実績



(2023年7月～2026年3月：実人数265名)

②iMU One(歩行中の膝関節の負担を可視化できる歩行解析計)



(変形性膝関節症の男女別・年齢別割合)



要介護の入り口

2025年9月に導入しました。膝関節痛は加齢とともに増え、自立生活を妨げる原因となり、要介護の入り口ともいえます。早めのケア、進行の予防を心がけることが大切といわれています。iMU Oneは膝にセンサーを装着し、5m程度を歩くだけで、歩行時の膝関節への負担を解析することができます。この膝関節への負担を数値で可視化する技術により、変形性膝関節症などに対するリスク予測、リハビリテーション、日常生活の質向上のためのアドバイスの提供を目指しています。

③ロボットスーツ HAL[®] 腰タイプ



スクワットや立ち座り動作の練習
起立や歩行が安定



介助者が装着することで腰痛などの負担軽減が図れる

最新の装着型サイボーグで、人が体を動かすときに脳から筋肉へ送られる信号(生体電位信号)を読み取ることで装着者の意に沿った動作が効率的に行えるようになるといわれています。腰に装着しスクワットや立ち座りの練習を行うことで起立動作や歩行が安定します。